「この人　28」　　**山本あかね**　75歳　兵庫県

**編集部**　俳句を始められたのはいつ頃から？

**山　本**　もともと右脳関係は好きでしたが、なかなか時間がなくて、子育ても終わり、親も見送って、五十歳代になってからです。友人に何気なく誘われて始めて、波多野爽波先生に入門、現在は大串章先生に師事しています。

**編集部**　滑稽句をつくる上で、心がけていらっしゃることは何でしょうか？

**山　本**　やはり、滑稽句に限らず、基本は「多作多捨」と「自由闊達」です。それは、芭蕉の「俳諧は三尺の童にさせよ」の言葉に通じると思います。自然で素直な柔らかい心、無心で詠むことですね。面白くしようという意識が働くと、どこか嫌味な句になりますから。

**編集部**　滑稽句の魅力は、何でしょうか。

**山　本**　以前に、「扇風機味付け海苔を飛ばしけり」という句をつくりました。私は大真面で作ったのですが、読み手によっては面白い句となります。滑稽句の魅力は、あからさまに可笑しさを出すのではなく、本人は大真面目でも、読み手には面白さ、哀しみ、ほろ苦さも、さり気なく伝わるところでしょうか。

**編集部**　これからも、自然で楽しい句をお待ちしております。

＜代表句＞

**靴下に指振り分くる暮の秋**
**抜歯する女医の荒業秋うらら**
**冬帽に聞き了へし耳しまひけり**
**箱河豚の立方体の暑さかな**
**羨しとも河豚提灯の全き歯**

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。